

1. 実況上の着目点

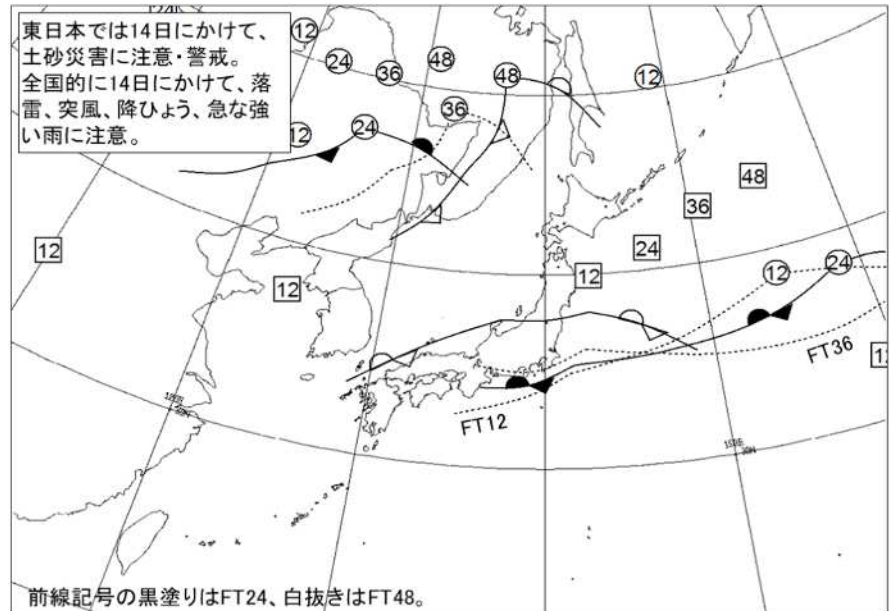
① 前線が、四国の南から日本の東にほとんど停滞。伊豆諸島付近には前線上のキンクがあり、周辺で激しい雨を解析。

② 500hPa 5640m付近で -21°C 以下の寒気を伴うトラフ対応の低気圧が、サハリン付近を東北東進し、日本海北部は気圧の谷。北海道地方ではやや強い風を観測。

③ 南西諸島付近は地上の気圧の谷で、下層暖湿気の収束域。沖縄周辺で、強い雨や激しい雨を解析。

④ 華北～朝鮮半島付近～東北

付近～日本の東は帯状の高気圧に覆われている。また、500hPa 5940m以上の上層の太平洋高気圧が、日本の東～日本の南で勢力を強めている。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の前線は、12日はほとんど停滞する。13～14日は、上層では大陸で深まるトラフの前面で南風成分が増し、下層では日本の東から日本のはるか東に移動する高気圧の後面の南よりの風が前線に向かって流れ込むため、前線が北上して、14日夜には、西～東日本の日本海側沿岸付近から東北地方を通して三陸沖にのびる。前線に向かう下層暖湿気と地上の昇温の影響で大気の状態が不安定となり、激しい雨の降る所がある。12日は1項④の上層の太平洋高気圧の影響下で対流活動が広範囲で活発化することはないが、13～14日は上層の高気圧が次第に勢力を弱めるため対流活動はより活発になる。また、これまでの大雨で地盤の緩んでいる所では、通常より少ない雨量でも土砂災害の危険度が高まりやすいことに留意。東日本では14日にかけて、土砂災害に注意・警戒。東～西日本では14日にかけて、東北地方では14日は、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意。

② 北海道地方では、12日は1項②の気圧の谷の影響を受け、14日はオホーツク海の低気圧からのびる前線が通過する。気圧の谷や前線に向かう下層暖湿気と上層寒気の影響で大気の状態が不安定となる所がある。北海道地方では12日と14日は、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意。

③ 1項③の気圧の谷は西へ進んで次第に不明瞭となるが、13～14日は日本の南を西進する上層寒冷低気圧や対応する地上の気圧の谷の影響を受けるため、南西諸島付近では大気の状態が不安定となる所がある。南西諸島では14日にかけて、落雷、突風、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ①雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。

②波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。

5. 全般気象解説情報発表の有無 発表の予定はない。